

助成事業成果報告書

<p>1 事業目的</p>	<p>内田地区における自然環境の再生や過疎化対策に取り組む。</p>
<p>2 事業内容 &amp; 事業成果</p>	<p>◆森林の整備保全について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*森林内の巨樹・古木の枝折れや倒木の撤去処理作業は例年実施してきたが、今年度は一昨年の台風や水害等の自然災害により里山としての保全整備に力を入れた。枝折れや倒木は、質・量的に想像以上であり、会員での処理が困難なため一部伐採業者に委託し危険木処理整備をした。</li> <li>*桜川周辺の「桜の名所づくり」は、植樹した苗木が台風折れやインシジによる掘り起しで枯れたものなどの補植とまわりの草刈り・竹刈を実施。</li> <li>3年目も約40本の苗木を用意して災害に耐えられるように造園業者指導で補植と増植を行った。</li> <li>*米沢の森の事業として予定していた椎茸づくりや桜の植樹会は、コロナウイルス感染症予防のためイベントの開催は自粛中止した。</li> <li>楽しみにしていたリピーターの皆様からは残念がられた。</li> </ul> <p>◆谷津田について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*約3ヘクタールの宿大木谷津を「生き物と有機米づくり」の美田として再生し、谷津としての稲作と景観を取り戻すために継続的に拡大発展させることを目標に掲げ、今年度は更に整備する対象の耕作放棄田を追加した。</li> <li>しかし、1昨年秋の台風と水害は想像を超えるものであり身も心も折れるくらい状況となった。災害復旧2年目は土砂の撤去と土留め工事にかを入れ元の耕作面積に復旧させた。ところが山砂の入った土壌は数年かけないと有機質の土壌に戻らない。米づくりより田作りを先人に学び、おいしい谷津田米「蛍米」にするためには土壌改良が必要と考え先人たちに倣い落ち葉や草の堆肥を入れ続けている。農機具や化学肥料のない昔からの農業の原点に戻った米づくりが、結果として生き物と共生できる谷津田になると信じている。</li> <li>また、鳥獣被害はさらに激しく、対応に追われている。掘り返された畔やフェンスの修理等いたちごっこの状態である。</li> <li>*台風災害による耕作放棄は前年に比べ拡大している。土砂の撤去や水路の整備に多額の費用や人手がかかっていることを考えると休耕することを選択する。併せて耕作者の高齢化が拍車をかけている。これは大きな社会問題でもある。</li> <li>*谷津田の再生は、地域を守る。「農業は地域を守る」と信じて活動を続ける。</li> </ul> <p>◆イベントについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*地元の歴史文化の継承として、行燈祭りや諏訪神社の祭り「奉納相撲祭」は、地域に残る歴史・文化遺産として残したい。残すためには知恵を絞らないと人口減少が続く過疎地の歴史や文化は消えていく。今年度で地域の内田小学校も閉校となり全校生徒の奉納相撲大会もなくなり地域は大きく過疎化に向かうだろう。これに歯止めがかかると対策も大事だと感じる。内田の自然と歴史文化の『探検、発見、ほっとけん』に力を入れる必要がある。小さなイベントの開催から地域を見直したい。</li> <li>―地域の行事としてははなく、広報誌や地域新聞を活用して後世に伝えたい。</li> </ul>

\*災害やコロナ感染症で中止せざるを得なかった年中行事を再開継続していく。【初日を観る会】・【かぎろひを観る会】・【山桜と菜の花祭り】・【谷津田の米づくり】・【ダイヤモンド富士鑑賞会】・【里山一日体験活動】(チェーンソーの資格取得の実技の場として活用)・【風倒木を活用した椎茸づくり】を実施

\*「桜の名所づくり」は、コロナの影響でイベントとしては出来なかったが有志により開催した。

\*今年度も市原南消防署からの依頼で、米沢の森を使って林間救助訓練の場として活用された。

\*花立野広場に通じる道路の整備をしたことで頂上からの景観を楽しむに訪れる方が増えた。さらにはアマチュア無線を楽しむ人たちの絶好の交信ができる『御十八夜』の頂上がにぎわいを見せている。そうした活用する人たちにより「内田の森」の遊歩道の整備とマップの作成ができ県外からの来訪者が急速に増えた。特に山歩き『やまっぴ』により広報誌を大きく上回る口コミで拡大している。

その他

\*耕作放棄地の活用について

害獣・天候に加えて自然災害により大きな打撃を受けた。耕作放棄地を再生活用させることがいかに困難なことであるか、ここにきて良く分かった。

耕作放棄地の谷津田の再生には、多額の費用と人手もかかり負担も重いが様々な支援を受けてでも再生させなければならぬと考えている。

大木谷津は、昨今では貴重な生き物の調査で訪れる人も多くなり、東邦大学の教授や教え子たちによる調査記録づくりも進んでいる。そのために宿谷津全体の約80 haの地番図を作り提供している。谷津田の現況や言い伝えられている歴史や文化も記載し古地図の地名も加えたりしている。

このように貴重な大木谷津は、一本柳の美しい谷津田として、持続可能な耕作地として復活させ、耕作放棄地解消のモデル地域となることを目指し諦めないで活動したい。そして、周囲の森は神仏の宿る里山として残したい。



## 助成事業自己評価書

(当該年度の活動の成果等から、今後の活動の方向性・改善点等も含め記載する。)

<p>ア 千葉県の環境再生に貢献する活動であったか</p>	<p>* 森林・谷津田・観光名所づくりは地域の再生活性化に大きな成果となっている。 * 害獣対策は、周辺地域の人達や行政と連携しながら強化している。特にイノシシによる被害が拡大しているなか電柵と併用したフェンスの効果がでている。 * 自然災害による土砂の流入は想像を上回り重機などの高額な投資も必要であった。我々が助成事業に取り組む中で、災害復旧のための活動ができたことは大変大きなことであったと思う。 もし、被害を受けたまま放置していたら、取り返しがつかなくなったことだろう。心から感謝している。</p>
<p>イ 一般県民の参加、支援が得られる活動となるように事業の周知ができたか</p>	<p>* 広報活動としてチラシの配布・メディアの活用・市原ケーブルテレビ・伝心柱・市の広報紙に取り上げられた。 * 内田の森の活動が城西国際大学のプロモーションづくりの対象として取り上げられ、学生たちもメールやラインで仲間たちに送り人気も上がった。 * 千葉県森林課や、ちば里山センターが開催したチェンソーの専門的な技術のスキルアップ『災害による危険木処理』のフィールドとして米沢の森が使用された。県内外から多くの参加があり、伐倒処理木の活用として薪ストーブ用に処理され好評を得た。これまで以上の評価が得られ米沢の森が多くの人に知られる結果となった。新年度での開催も予定されている。 * その他にも遊歩道づくり・危険木の伐倒処理体験場・谷津田の生き物保全整備として水路の改修・有機米の土壌整備の体験等々、米沢の森が一役を担う場面が多かった。</p>
<p>ウ 既存の活動や他の団体等の活動と広く連携できる活動であったか</p>	<p>* 市原市の花プロジェクト(菜の花の種まき) * 市原市が任命した地域おこし協力隊(林業や農業を目指す若者) * アートミックスとの連携 * 農業関係者との連携・農林業振興課、農業委員会・農協共済 * 県森林課・ちば里山センター * 市原市の環境管理課の広葉樹の森づくり * 地元牛久小学校(内田小学校と統合した)仲良し遠足の実施 * 山歩き同好会(ヤマツツ)災害ボランティアからの活動支援 その他多くの団体等との連携ができた。</p>
<p>エ 活動の中で専門家、地元市町村の協力が得られたか</p>	<p>* 市原市農林業振興課、環境整備課の災害補助事業からの復旧活動について今年度も指導と物資の提供があった。 * 農道の復旧で今年度も市原市南部土木課の指導と支援があった。 * 農業委員会による耕作放棄地の再生指導と支援アトバイスがあった。 * 農業者からの農機具の中古品の提供や使用・修理の指導があった。 * 造園業からの苗木の植栽指導や、ちば桜の会からの苗木の寄付があった。 * 東邦大学谷津田の調査や保全整備について指導があった。</p>